

春の音が聞こえる



みちのく五大曹まつり
青森冬の三大まつり

青森県八戸市

国重要無形民俗文化財

杵 八戸えんぶり

えんぶりの移り変わり

— 歴史 —

- ・国指定重要無形民俗文化財「八戸のえんぶり」
- ・指定年月日——昭和54年2月3日
- ・保存団体——八戸地方えんぶり連合協議会

えんぶりは、年の初めに豊年満作を祈る民俗芸能である。八百年前、鎌倉時代の初期、甲斐の国（現在の山梨県）からこの地にやってきた殿様の祖先南部光行の家来たちによってはじめられたなどの伝承をはじめ、諸説唱えられている。

現在、全国に「田遊び」「田植踊り」といった民俗芸能が残されているが、えんぶりもその一種といえる。その名称は田んぼの土をならす「杵(エブリ)」という農具からきたものと考えられており、太夫が手にする「ジャンギ」と呼ばれる棒はその象徴とされる。もともとえんぶりは小正月（旧1月15日）に行われる神々への祈りの予祝行事であったが、神様と人々が一緒になって楽しむ舞や踊りの芸能も加えられ、時代とともに娯楽的な年中行事としても受け継がれてきた。

えんぶりには、動きがゆったりとした古い型の「ながえんぶり」と、テンポが速く唄の間に（どうさい）の掛け声が入る「どうさいえんぶり」の二つの系統がある。えぼしを被った3人或いは5人の太夫が中心になり、親方、はやし手、舞手など20～30名で「組」が構成される。太夫が踊ることを「摺る」といい、この摺りの合間に「えんこえんこ」や「松の舞」「えびす舞」といった祝福芸が演じられる。

明治期には100組以上の組が八戸の町に集ってきたと言われているが、経済構造の変化に伴う資金難、後継者問題等で廃止された組も数多くあり、戦後の一時期はえんぶり自体の存続も危ぶまれたことさえある。現在では岩手県北を含めた40組ほどのえんぶり組が活動を続けており、国の重要無形民俗文化財の指定、中心街での一斉摺り、かがり火えんぶりなど新しい企画とともに、各組関係者から次代を担う子供たちへ、芸の伝承も続けられている。

監修：正部家 種 康

併催行事
八戸えんぶり
かがり火えんぶり

2/17～20
(4日間)

☆観光のお問合せ はちのへ総合観光プラザ TEL 0178-27-4243